

17. ヨモギ（キク科ヨモギ属）

Artemisia princeps Pamp.

2014年10月

至る所に生育するごく普通の多年草で、茎はそう生し、高さは50~100 cmで多く分枝し、地下茎を伸ばし増え広がります。葉は長さ6~12 cm、幅4~8 cm、羽状深裂し、裂片は2~4対で縁には歯牙があり、裏面は灰白色のくも毛があります。頭花は9~10月に円錐花序に多数つき、総苞は長楕円状鐘形で長さ2.5~3.5 mm、幅1.5 mm、そう果は長さ1.5~2 mmです。花弁は目立たず、風媒による受粉です。分布は本州、四国、九州、小笠原、朝鮮です。地下茎などから他の植物の発芽や生長を抑制する物質を出すアレロパシー（他感作用）を有する植物のひとつです。東アジアでは一般的な食用植物で、日本においても若葉を餅に加えたヨモギ餅（草餅）が有名です。また、若葉のてんぷらも美味で山菜の重要な種類です。また、お灸に使用する「もぐさ」はヨモギの葉の裏側にある綿毛を集めたものです。葉は止血作用がある生薬で、乾燥した株を煎じて飲むと健胃、腹痛、下痢、貧血、冷え性などに効果があるとされます。風呂に入れば腰痛や痔、冷え症に効果がある有益な植物です。しかし、ヨモギの花粉は花粉症のアレルゲンになるといわれ、秋の花粉症の原因になっているようです。

姫路市及び周辺で見られる類似種にオトコヨモギ（*Artemisia japonica* Thunb.）とイヌヨモギ（*Artemisia keiskeana* Miq.）があります。オトコヨモギは日当たりのよい丘陵地やため池の土手に生育する多年草で高さ40~100 cm、地下茎はなく、そう生します。葉はへら状くさび形、長さ4~8 cm、基部は托葉状に茎を抱き、先端は3中裂~浅裂、羽状中裂または深裂、まれにほとんど全縁です。イヌヨモギはオトコヨモギと同様の環境に生育する多年草で、地下茎は短く、茎はそう生し、花をつけない茎は短く、ロゼット状に広いさじ状の葉をつけます。花をつける茎は長さ30~80 cmあり、下部の葉は花時には枯れ、中部の葉は倒卵形またはさじ形で長さ4.5~8.5 cm、大きな鋸歯があります。



ヨモギ



オトコヨモギ



イヌヨモギ